

学校教育目標	自他を大切に主体的に学び、生きる力をはぐくむ児童の育成
目指す学校像	分かる授業を追求する「楽しい学校」 自他を大切に、感動する心を磨く「優しい学校」 進んで運動し、心も鍛える「元気な学校」 児童・保護者・地域の思いを大切に「愛される学校」 持続可能な働き方を工夫し、資質向上を図る「働きがいのある学校」

重点目標	1 教育DXを活用し、学習者が主体的に学ぶ授業の実現 2 誰1人取り残さない教育を実現するためのカリキュラム・マネジメントの充実 3 子どもの Well-being のための家庭・地域と連携した学校づくりの推進 4 子どもが安心・安全に過ごせる教育環境の整備 5 「新たな教師の学びの姿」を具現化する教員研修の充実
------	---

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心をサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学校自己評価					学校運営協議会による評価		
年度目標					年度評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> 児童がタブレットを活用し共同編集等を行うことで、友達のを考え方を自分の考えに生かすなど協働的に学ぶ様子が見られるようになってきた。 市調査では、「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている」と肯定的評価をした高学年の割合は93%と高い。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数、理科ともに全国、市平均をやや下回っているが、分布としては中央値より下の層が多い。 全国学力・学習状況調査児童質問紙によると、「学習習慣」や「読書等」の意識に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育DXによる学習者が主体的に学ぶ授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> ①話し合いの目的や視点を明確にして児童が互いの考えを共有できるようにICTの有効活用をする。 ②複数教員で個々の児童のよさを見取り、各教員の専門性を生かせるよう全学級で担任以外の授業(一部教科担任制:太田スタイル)を実施する。 ③考える力を育成する日常的な読書活動を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学びの指標「ICTの効果的な活用」に関する設問の肯定的な評価が向上したか。(R7:3.18→R8:3.20) ②全学級で担任以外の授業(一部教科担任制:太田スタイル)を実施したか。 ③日常的な読書活動の推進のための新たな取組を行ったか。 			
2	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校評価における保護者・教職員の「いじめのない学校づくり」に係る項目での肯定的な回答については、共に89%であった。 教育相談主任、特別支援教育コーディネーターを中心に、SC、SSWを交えながら支援体制を整えている。 地域ボランティアと連携したSola るーむの運営が行われている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 心と生活のアンケート結果等によると、自己肯定感の低い児童が多い。個別の課題を抱える児童を把握し、相談・支援を行っている。 全国学力・学習状況調査において、「いじめはどんな理由があってもいけない」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国・県平均をやや下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童理解を基盤とした組織的な校内支援体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ①ICTを活用した月1回の各種委員会(生徒指導・教育相談・Sola るーむ支援会議、特別支援教育)により、継続的な状況把握や必要に応じた組織的な支援を行う。 ②スクールロイヤーによる教員研修及びいじめ防止のための特別講義の実施をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①各種委員会の開催及びアンケート結果や行動観察に応じた迅速・組織的な対応をしたか。必要に応じてケース会議の開催や専門機関等との連携による支援を実施したか。 ②学校評価「いじめのない学校づくり(保)」の肯定的評価の維持をしたか。(R7:89%→R8:89%) 			
3	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> 岩槻小・岩槻中と本校の3校合同で、学校運営協議会を組織し、岩槻中学校区で児童・生徒に身に付けさせたい力の具現化について熟議を重ねている。 学校評価「地域行事の参加」における肯定的評価は80%であった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニティ・スクールの意義や効果、必要性等について、学校・家庭・地域で理解を深めていくことが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会を基盤とした家庭・地域との連携 地域を愛する児童の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校運営協議会の計画的な実施と、熟議内容の工夫を行う。 ②運営委員会に代表児童が参加する機会を設けたり、学校運営協議委員へ学校行事や研究授業を公開したりする。 ③開校60周年に向けての取組の方向性を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ききょうルーム(太田小 Sola るーむ)における個別の支援を充実させ、効果的な運営を行うための要項を作成したか。 ②特別支援教育ネットワーク協議会等の連携による指導・助言に基づいた支援を実施したか。 			
4	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> 開校59年目となり、施設の老朽化が進んでいる。 学校施設・設備の安全の確保については、教職員で毎月点検を行い、組織的に対応している。施設不備による児童の事故事案は発生していない。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校施設における修繕が必要な箇所が複数あるため、見直しをもった修繕計画や予算執行が一層必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 快適で安全な教育環境の管理 	<ul style="list-style-type: none"> ①年度当初に怪我につながる危険箇所について管理職・事務職員と合同安全点検を実施する。 ②校長マネジメント予算を基に優先順位を付け、長期・短期で修繕計画の立案と計画的な予算執行を行う。 ③市教委と協議し、課題であるプールシャッターやエアコン修繕を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①管理職・事務職員と合同安全点検の実施をしたか。(4月) ②校長マネジメント予算を基に優先順位を付けたか。長期・短期で修繕計画の立案と計画的な予算執行をしたか。 ③学校施設課に随時確認をしながら、修繕に向けて計画を勧められたか。 			
5	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> 『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実』の研究では、教育スキル向上部、児童支援部、ICT活用推進部に分かれ、多面的に研修を進めている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 「勤務に関する意識調査」(R7)では、やりがいや満足感を感じている教職員は100%、負担感や多忙感を感じている教職員は82%と市平均より高いが、中堅教員の複数異動により、時間外等在校時間が令和7年度より増加傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別最適な学びと協働的な学びの充実を実現する校内研修の実施 一人ひとりが働きやすく、働きがいのある職場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ①研修主任を核とした「個別最適な学び」と「協働的な学び」についての組織的な学校研修による実践を重ねる。 ②当初面談を活用し、キャリアステージに応じた受講奨励の実施をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①指導者を招聘した年2回の研究授業と全教職員による一人年2回の公開授業を実施したか。 ②推薦研修を含め、当初面談を活用し、キャリアステージに応じた受講奨励の実施をしたか。(5月末、1月) 			
			<ul style="list-style-type: none"> ①業務改善やメンタルヘルスの確認を含めた教職員との面談を実施する。 ②タイムマネジメントを意識するよう会議開催に当たり、開始時間・終了時間を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ストレスチェックにおける健康リスク値の維持(R7:男58女69) ②各種会議開催に当たり、開始時間・終了時間を明確して会議を進行したか。 			

実施日 令和 年 月 日
学校運営協議会からの意見・要望・評価等

